

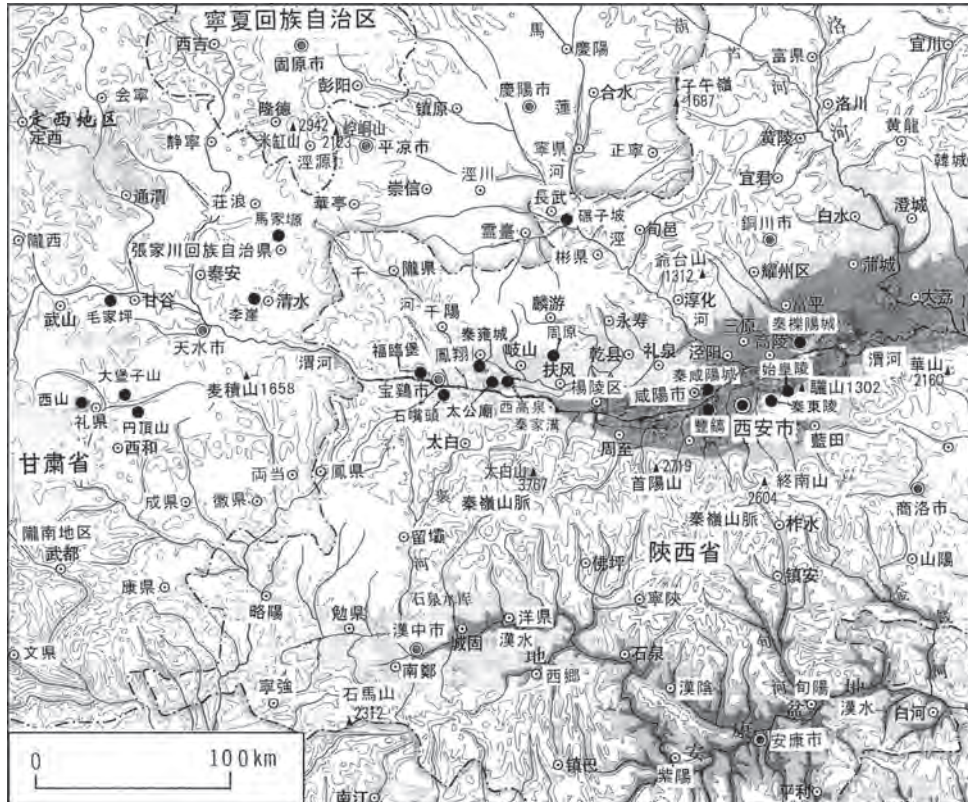
早期秦文化の土器

飯島 武次

(公益財団法人東洋文庫・駒澤大学)

はじめに

筆者は近年来、甘肅省・陝西省内の西周時代併存期の秦人遺跡および春秋戦国時代秦文化遺跡の調査研究を行ってきた。特に、2016～2018年度には、科研費一般研究 基盤研究 (C) 研究課題名「渭河流域における秦文化成立の考古学的研究」で科学研究費の採択を受け、陝西省・甘肅省の渭河流域で西周時代併存の秦人遺跡および東周時代秦文化遺跡の踏査を行った。陝西・甘肅省内で出土した秦文化関係の土器・瓦・埴・青銅器などのスケッチ・写真撮影をおこない、資料の収集を行ってきた。それらの資料の中から秦建国期に関わる早期秦文化土器の変遷過程を考古学的に考察し、それを紹介してみる。ここで



第1図 甘肅・陝西渭河流域の早期秦文化・秦文化遺跡
および西周文化遺跡地区

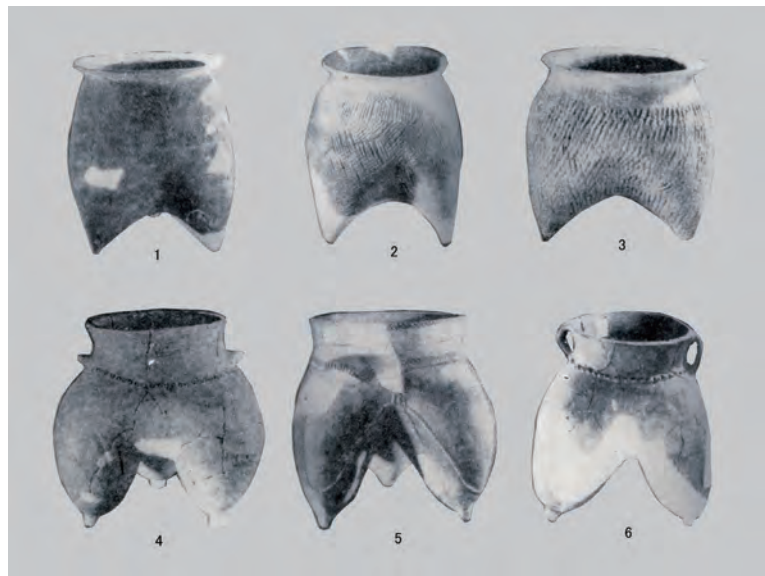
紹介する土器の多くは副葬品として墓に納められた物であるが、一部生活遺跡から出土した実用の土器も含まれている。

1. 秦祖先の伝説と秦文化の出現

秦の伝説と歴史はまず、『史記』秦本紀の冒頭に

秦之先、帝顓頊之苗裔。孫曰女脩。女脩織、玄鳥隕卵。女脩吞之、生子大業。大業取小典之子。曰女華。女華生大費。…舜賜姓嬴氏。大費生子二人⁽¹⁾。

とあって、秦の伝説では、舜から嬴氏の姓を賜り、ここに秦が始まったことになっているが、考古学的に確認できる早期秦文化は西周時代に、さらに古く遡れば殷後期時代に、甘肅省東部の渭河流域から興り、次第に東の陝西省西部地域に勢力を拡大している。早期秦文化の遺跡として常に取り上げられるのは、1982・1983年に北京大学によって発掘された毛家坪遺跡である⁽²⁾。毛家坪遺跡は、甘肅省天水市甘谷県盤安郷毛家坪村の渭河の南岸に位置し（第1図）、遺跡の面積は約30000m²以上ある。毛家坪遺跡出土の土器群は、秦人文化と推定される夾砂灰陶の連襠鬲系の周形鬲を含むA組文化と、筆者および幾人かの研究者が西戎文化⁽³⁾と推

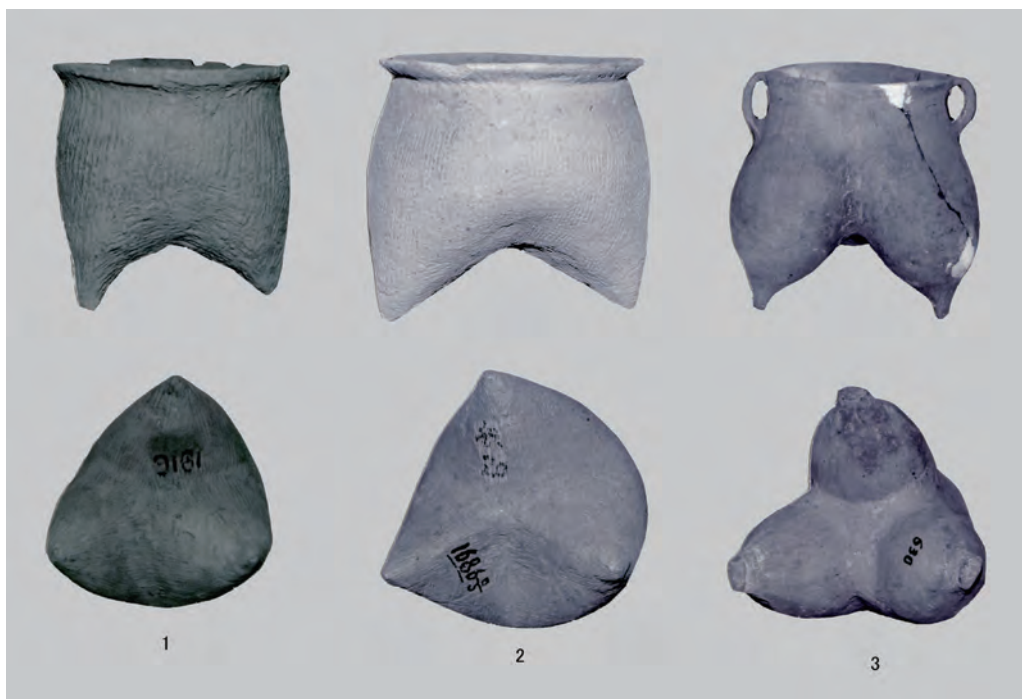


1～3.A組文化・西周、4～6.B組文化・春秋戦国、毛家坪遺跡
第2図 陶鬲



第3図 毛家坪遺跡A地点北 ボーリング調査
甘肅省甘谷県盤安鎮

定する夾砂紅陶系の分襠鬲である鐘足鬲から成る B 組文化土器に分けられている。A 組文化には住居址を含む包含層と墓があり、住居址 2 基、灰坑 37 基、鬲棺 4 組、土壙墓 22 基があった。包含層・住居址遺構は四期六段に分けられ、年代は西周時代前期から戦国時代後期に到る。墓は 五期八段に分けられ西周時代中期から戦国時代前期に到る⁽⁴⁾。出土した土器の中で『考古学報』1987 年第 3 期に報告された鬲の写真の一部を第 2 図に示しておく。第 2 図の 1～3 は、A 組文化と報告された周形の連襠鬲で、1 は生活遺跡からの出土で、2・3 は墓からの出土である。これらの鬲には、股間に独特の凹みが存在し、報告書では、これらの土器を豊西の第 4・5 期の遺物と考えているようであるが、筆者は、鬲の器形から筆者編年の西周第 1 期から第 2・3 期に属すると考えている⁽⁵⁾。周形鬲としては渭河流域の天水以西の資料例と言える。第 2 図の 4～6 は、いずれも墓からの出土で、B 組文化に属すると報告されている夾砂紅褐陶の土器である。特色は分襠で袋足先端が平底小実足の鐘形を呈し、鐘足鬲とも呼ばれている。報告に拠れば概ね春秋時代併存の時期と判断しているが、今日的な研究では戦国時代中期から後期の遺物と考えられている⁽⁶⁾。B 組文化は秦文化とは異なる渭河上流域の秦併存の西戎文化の遺物と理解できる。いずれにしろ、これらの土器は先秦文化土器研究の第一歩となった土器である。駒澤大学文学部歴史学科考古学研究室では、2012 年の西北大学・梁雲教授による毛家坪遺跡の調査時に遺跡を訪問している（第 3 図）。



1. 殷形鬲、2. 周形連襠鬲、3. 鐘足鬲
第 4 図 陶鬲

『史記』秦本紀の冒頭には、さらに

…自太戊以下、中衍之後、遂世有功、以佐殷國。故嬴姓多頭、遂為諸侯⁽⁷⁾。

とあって秦が殷と関わりが深く、殷の太戊以来、殷では秦の嬴姓のものが多く世に時めいていたという。この記事が、秦人と殷王朝の関係を歴史的事実として示しているとは言い切れないが、この記事には秦と殷と



第5図 李崖遺跡
甘肅省天水市清水県

の関係をうかがわせるものがある。また、秦の祖先非子について、『史記』秦本紀では、

非子居犬丘、好馬及畜、善養息之、犬丘人言之周孝王、孝王召、使主馬于汧渭之間、馬大蕃息。…邑之秦、使復續嬴氏祀、號曰秦嬴⁽⁸⁾。

とあり、この「邑之秦」について『括地志』秦州に（『史記』「邑之秦」正義引）

秦州清水縣本名秦、嬴姓邑。漢清水縣屬天水郡⁽⁹⁾。

とある。秦の非子が犬丘で馬を飼い牧畜に優れていたという。それを聞いた周の孝王は非子を召して、汧水と渭水の間で馬を養わせたところ、馬は大いに繁殖したという。その功績により、周孝王は非子に秦邑の地を與え、秦嬴と号したという。周孝王から賜った秦邑の地とされる甘肅省天水市清水県の清水県博物館には、清水県出土の殷中期文化末からは西周時代・東周時代に至る幾つかの興味深い陶鬲が収蔵されている。第4図の1は、清水県出土の高さ約13cmほどの殷形灰陶鬲で、口沿は大口で荒い縄紋が施され3本の袋足が隣接する袋足と接合される。第4図の1下段の底部の写真で接合の状態を観察することが出来、殷中期文化第3期から殷後期文化第1期の遺物に類似する。殷墟遺跡出土の陶鬲に類似した遺物が甘肅省清水県から出土していることに興味を覚えるが、北京大学考古文博学院・趙化成教授の話では、清水県の先周遺跡からは殷式の土器が度々出土するという。第4図の2は、清水県出土の高さ15cmの周形灰陶鬲で、いわゆる連襠鬲である。比較的細かな縄紋が施され、底部を見ると3本の袋足のそれぞれの稜線に沿って接合され、3方向の股間には連襠鬲独特の凹みが認められる。筆者編年の西周第2・3期の遺物で、毛家坪遺跡出土のA組の周形鬲中にも第4図の2に近い器形の遺物が有る。

渭河上流域の天水市の清水県・甘谷県にかけての地においては、先の周形鬲の出土は少なくない。また、いわゆる秦邑の地である清水県には殷形の土器の痕跡があり、これらの周形土器、殷形土器が、早期秦文化の中心的な土器となっていくと考えている。なお筆

者は、2010年の8月と9月の二度に渡り、北京大学考古文博学院の趙化成教授の行った清水県李崖遺跡の発掘現場を訪問した（第5図）。

『史記』秦本紀には秦に関わる西戎と西垂の記載が見られ、

周宣王即位、乃以秦仲為大夫、誅西戎。西戎殺秦仲。…周宣王乃召莊公昆弟五人、與兵七千人、使伐西戎。破之。於是復予秦仲後及其先大駱地犬丘、并有之、為西垂大夫⁽¹⁰⁾。

と、周の宣王が即位すると王は、秦仲に大夫の位を与え、西戎を伐たせたが、西戎は反撃し秦仲を殺した。その後、周の宣王は秦仲の息子の莊公等五人の兄弟を召し、兵七千人を與え、西戎を伐たせたという。この功績により周の宣王は秦莊公にかつて秦仲が治めていた地と犬丘を予え、それらの地を併せて治めさせ、西垂の大夫にしたと言う。その西垂は『括地志』秦州に（『史記』秦本紀「為西垂大夫」正義引）、

秦州上邽縣西南九十里、漢隴西西縣是也⁽¹¹⁾。

とあり、西垂は漢代の隴西郡西縣に当たり、今日の甘肅省礼県北約35km付近と考えられている。この地の西漢水流域では、早期秦文化の土器が散布する礼県永興郷の円頂山（趙坪）遺跡や蒙張遺跡など多数の遺跡が発見されている⁽¹²⁾。先の毛家坪遺跡や、非子以来秦仲に至るまで秦に関わった清水県の秦邑の地では、早期秦文化の土器の他、時代が下る春秋時代後期から戦国時代に属すると考えられる鍮足鬲も発見され、西戎の遺物と推定されている。第4図の3は清水県博物館収蔵の高さ約14cmほどの紅陶鍮足鬲である。この鬲は口頭で最大径は腹部にあり、太い袋足と双耳を有し、袋足の先端は鍮形の小実足となっている。第4図の3の下段の写真をみると鍮足の形がよく解り、また三つの袋足を接合する股間の粘土帯の状況も鮮明でよく解る。この器形の鍮足鬲に関しては、多くが戦国時代の遺物と考えられているが、西周時代以降戦国時代に到るまで秦が清水県の秦邑の地で、西戎と密接かつ複雑な関係を持った歴史を辿っていたことを思わせる。

2. 秦国の成立から平陽時代

秦が諸侯として建国した時の様子として『史記』秦本紀には、

…西戎、犬戎與申侯伐周、殺幽王驪山下。而秦襄公將兵救周、戰甚力有功。周避犬戎難、東徙雒邑。襄公以兵送周平王、平王封襄公為諸侯、賜之岐以西之地。曰、戎無道侵奪我岐豐之地、秦能攻逐戎、即有其地、與誓封爵之、襄公於是始國⁽¹³⁾。

と、西垂の大夫であった秦襄公が、周平王を守り、洛陽へ送った功により、諸侯として認められ秦を建国した歴史が書かれている。

甘肅省礼県永興郷と永坪郷の境界、西漢水北岸に位置している大堡子山遺跡では 1993 年頃に大規模な盗掘があり、その後 1994 年に発掘が行われ 2 基の中字型墓と祭祀坑（樂器坑）等が発掘された⁽¹⁴⁾。南側の M2 号墓は全長 88m、北側の M3 号墓は全長 115m であった。いずれの大墓も墓室の二層台上に殉死者が置かれ、犬を殉葬した腰坑が設けられていた。大堡子山大型墓から出土したと推定される秦公鼎や秦公簋が上海博物館に収蔵されたが、その青銅鼎や簋には竊曲紋が施され、この秦公鼎と秦公簋の器形と紋様は、林巳奈夫教授の青銅器編年の西周Ⅲ B から春秋Ⅰに当てはめられ、これら鼎や簋は型式的に西周時代末・春秋時代初頭の遺物である。

『史記』秦始皇本紀の記載に、

襄公立享國十二年、初為西時。
葬西垂⁽¹⁵⁾。

と伝えられるが、先記したように西垂は漢代の隴西郡西縣に当たると考えられ、今の礼県の北 35km 付近で、大堡子山の位置は甘肅省礼県の北西、西漢水の北に位置する。墓の考古学的年代、地理的位置から、さらに秦公鼎・秦公簋銘にある秦公を正式に名乗るのは第 1 代襄公からである事から、筆者は、M3 号墓の被葬者が襄公、M2 号墓の被葬者が襄公妃である可能性が極めて高いと、推定している⁽¹⁶⁾。

筆者は、2017 年 9 月に甘肅省礼県大堡子山遺跡を訪れ、礼県博物館で秦建国後間もないと推定される時期の土器の写真撮影をした。第 6 図の



西山遺跡から、西山遺跡後方は礼県市街、
右手遠方が円頂山遺跡、左端遠望が大堡子山遺跡
第 6 図 西山遺跡



1・2. 陶壺・円頂山遺跡、3・4. 陶倉・西山遺跡、春秋時代
第 7 図 副葬陶器



第8図 副葬陶器 福臨堡遺跡

写真は甘肅省礼県の市街西方の山裾に位置する西山遺跡であるが⁽¹⁷⁾、西山遺跡後方（東方）は礼縣市街、右手遠方が礼県永興郷趙坪村の円頂山（趙坪）遺跡、左端遠方が大堡子山遺跡の方向である。第7図の1・2は円頂山遺跡出土の副葬陶器の陶方壺である。1・2とも高さは約38cmで、土器表面には細かい縄紋が施され、双耳と環が付く。陝西省西部、甘肅省東部の春秋時代墓の副葬青銅器に見られる壺の形を土器に写した器形である。先記したように円頂山遺跡では西周時代後期から春秋時代前期の比較的古い土器も採集され、また春秋時代前期に属する円頂山M1号墓も発掘されているので⁽¹⁸⁾、1・2

の方壺の時期は春秋時代前期の襄公晩年・文公から靜公・寧公初頭へ至る時代の遺物と考えたい。第7図の3・4は西山遺跡出土の副葬陶器の陶倉である。3・4とも高さ約28.5cmほどの遺物で、土器表面には細かな縄紋があり、やはり春秋時代前期の第7図の1・2の陶方壺と同じ時期に属すると考えたい。陶倉は穀物倉の明器であるが、この種の陶方壺や陶倉明器の出現としてきわめて古い例で、後述する福臨堡遺跡や西高泉遺跡の基本的な副葬陶器よりは一時期古い襄公晩年・文公～寧公初年とみている。これ以降、秦国の墓においては陶倉の副葬が普遍化する。周室と関連する洛陽中州路では、戦国時代の終わりに至るまでこのような建造物の明器は存在しない。陶倉の春秋時代前期からの出現は、秦国の禮制、葬制にたいする革新性を示す現象である。

『史記』秦本紀、文公四年の条には、

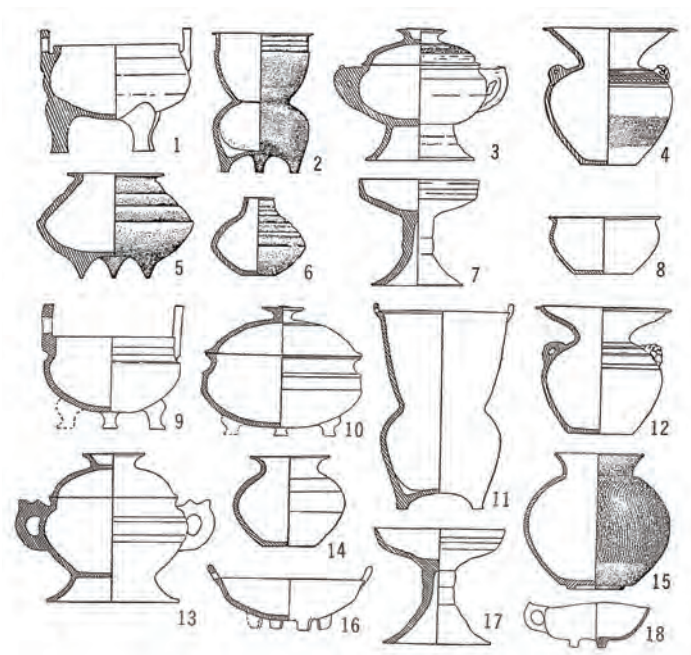
四年、至汧渭之會曰、昔周邑我先秦嬴於此。後卒獲為諸侯。乃卜居之。占曰吉。即營邑之⁽¹⁹⁾。

とあり、汧渭之會を邑としているが、この汧水と渭河の合流点である西周時代末の汧渭之會は後述する平陽より東かもしれない⁽²⁰⁾。さらに『史記』秦本紀には、

寧公二年、公徙居平陽、… 武公元年、… 居平陽封宮⁽²¹⁾。

とあり、秦が寧公二（前 714）年に今の陝西省宝鶏市陳倉区付近、渭河の北岸の平陽に遷ったことが記されている。1978 年に渭河北岸の陝西省宝鶏市楊家溝太公廟村で発見された秦公罇には⁽²²⁾、1 代襄公・2 代文公・静公・3 代寧公・5 代武公と理解できる代名詞や秦公名が記載されている⁽²³⁾。宝鶏市の市街西の渭河北岸で発見された福臨堡遺跡の秦墓群は、春秋時代秦国の遺跡と報告されている⁽²⁴⁾。福臨堡遺跡では、1959・1960 年に春秋時代墓が調査され、6 基の墓から副葬陶器が出土している（第 8 図）。出土した副葬陶器の器形には、甗 4 点、鼎 11 点、方壺 6 点、広口罐 1 点、簋 6 点、鬲 2 点、無蓋豆 3 点、盆 2 点、罐 3 点、匜 2 点、盤 1 点があった。甗には 3 足の物と 4 足の物が有り、実用陶器のごとき縄紋が施された遺物と（第 8 図の 1・2）、青銅器の器形を写したと思われる凸起弦紋が施された遺物（第 8 図の 3・4）がある。福臨堡遺跡では副葬陶器としてこの様な甗が見られるが、秦独特の副葬陶器の器形と見ることが出来る。鬲（第 8 図の 8）は頸部以下に縄紋が施され、底部に麻点紋が施されている。鬲はこの時期の副葬陶器組み合わせの基本を成す物であるが、福臨堡遺跡の 6 基の副葬陶器副葬墓からは 2 点のみの出土である。福臨堡遺跡では 11 点の陶鼎が出土し、陶鼎（第 8 図の 5・6）の器形は明らかに青銅器の器形を写している。元になった青銅器の鼎の器形からは形が崩れているが、大堡子山遺跡出土の秦公鼎など秦の青銅鼎が元になっていると考えて好いであろう。陶鼎（第 8 図の 7）は縄紋のある円底罐に 3 本の実足を取り付けた器形である。福臨堡遺跡出土の陶方壺（第 8 図の 9・10）は、青銅の方壺の器形を写したと考えられ、9 には細かな彩絵が施され秦の副葬陶器の特色を示している。器形の細部は異なるが、福臨堡遺跡の M1 号墓からは陶方壺の元に成った器形と思われる青銅方壺が出土している。陶豆（第 8 図の 12）にも彩絵が施されている。陶簋（第 8 図の 15・16・17）も同時期の青銅簋を模倣したことは明確で、特に 16・17 は大堡子山出土の秦公簋の類を思わせ、17 には秦独特の彩絵が施されている。盆（第 8 図の 13・14）は平沿、平底で、西周時代末の陶盆の器形に類似するが、春秋時代前期の秦における副葬陶器においては組み合わせの基本となる器形である。罐（第 8 図の 11・18）も春秋時代前期の秦における副葬陶器において組み合わせの基本となる器形である。福臨堡遺跡の秦墓から出土した副葬陶器の組合せは、福臨堡 M4 号墓に代表される鬲・盆・罐を基本とする物と、M3 号墓に代表される鼎・簋・方壺に代表される物がある。鬲・盆・罐からなる組み合わせは、周室に関連する洛陽中州路に見られる鬲・盆・罐の組合せと同じであるが、この秦領域においては西周時代後期の副葬陶器の伝統を受け継いでいると見ることが出来る。鼎・簋・方壺に代表される組み合わせは、秦の春秋時代前期の青銅器の組み合わせを副葬陶器に写したものである。

福臨堡遺跡の墓の細かな年代決定は難しいが、M1 号墓出土の甗・匜・盤などの青銅器



1～8.M2号墓、9～18.M3号墓、西高泉遺跡
第9図 副葬陶器



1. 簋、2. 甗、西高泉村遺跡
第10図 副葬陶器

の墓が発見され、M1号墓からは、上村嶺虢国墓地出土の青銅器と同時期か若干古いと思われる、壺・豆・甬鐘・劍・斧・戈などの青銅器が出土している。M2号墓、M3号墓からは、鼎6点、簋8点、豆4点、甗2点、広口壺4点、鬲1点、盆1点、罐5点、盤1点、匜1点の副葬陶器が出土している(第9・10図)。第9図の1～8は、M2号墓出土の遺物で、他に秦形陶鬲の副葬もあった。9～18はM3号墓出土の遺物である。いずれも、鼎・甗・簋・無蓋豆・広口壺を有し、鼎・甗・簋の器形は青銅器から派生したものである。陶豆(第9図の7・17)や広口壺(第9図の4・12)は、秦における春秋時代前期の副葬陶器の特色を示している。第10図の1はM3号墓出土の陶簋で、第9図の13の写真である。大堡子

は河南省三門峽市上村嶺の虢国墓地1820号墓出土の青銅器に似るほか⁽²⁵⁾、河南省郊県太僕郷遺跡出土の青銅器に近い⁽²⁶⁾。また、鬲・盆・罐の副葬陶器の組合せが、西周時代後期に好んで用いられた組合せである点も注意すべきで、福臨堡遺跡の秦墓が西周時代後期末に近いことを示している。林巳奈夫氏の青銅器編年で言えば、福臨堡遺跡の時期は春秋I⁽²⁷⁾、または春秋時代前期の前770年から前7世紀中頃までの間となるが⁽²⁸⁾、筆者は上限をやや下げて文公から寧公・武公の時代と考えている。言い換えれば前8世紀中葉から前7世紀前半の遺跡である。

福臨堡遺跡の秦墓と比較的年代が近い春秋時代秦墓に宝鶏県楊家溝の東部で発見された西高泉遺跡がある⁽²⁹⁾。この楊家村西高泉村付近は、寧公が前714年に平陽を置いた地に近い場所と推定されているが、秦平陽の位置は確定されていない。この西高泉遺跡では、3基

山遺跡出土の秦公簋の類に器形が似ている。第10図の2は、第9図の11の甗である。西高泉村遺跡の土器の器形と組合せは、福臨堡遺跡出土の遺物ときわめて類似し、鼎・簋・広口罐を基本として甗・無蓋豆が加わる組合せは、福臨堡遺跡の組合せに極めて近い。福臨堡遺跡では方壺であったものが、西高泉遺跡では広口罐を用いている。西高泉遺跡の3基の墓の年代に関しては、M1号墓出土の青銅器の年代と、副葬陶器の器形・組合せから、寧公・武公の前8世紀後葉から前7世紀前半の時代を考えたい。なお岡村秀典氏は西高泉遺跡のM3号墓を古くM2号墓を新しく見ている⁽³⁰⁾。



1～7.M3号墓、8・9.M4号墓、秦家溝遺跡
第11図 副葬陶器

同じく秦平陽に近いと推定される宝鶏県平陽鎮の秦家溝遺跡で副葬陶器を出土したM3・4・5号墓の3基の秦墓が報告されている⁽³¹⁾。M3号墓からは、鬲1点、盆2点、広口壺2点、甗1点、無蓋豆2点、匜1点、盤1点の副葬陶器が、M4号墓とM5号墓からは、それぞれ鬲1点、盆1点、罐1点の副葬陶器が出土している(第11図)。報告書に罐の写真が示されていないため、ここの第11図では罐の写真を欠くが、秦家溝遺跡の副葬陶器の基本的組合せは、鬲・盆・広口壺あるいは鬲・盆・罐と見ることができる。秦家溝遺跡のこの3基の秦墓は、西高泉遺跡と同じく、秦平陽近郊の墓と考えられ、報告書はその年代を戦国時代としているが、甗・広口壺・豆などの器形と土器の組み合わせから、西高泉遺跡の3基の秦墓とほぼ同じか、やや年代の下がる寧公晩年・武公・徳公の前8世紀末から前7世紀の時代を考えたい。

秦国の墓の副葬陶器には、春秋時代前期の前8世紀後半から前7世紀初頭にすでに青銅器を模倣した鼎・簋・方壺・甗が出現している。このころの洛陽の東周副葬陶器は、西周時代以来の伝統である鬲・盆・罐の実用陶器の組合せが一般的で、秦の副葬陶器と周王室



第12図 陶鬲
戦国時代、駒澤大学考古学研究室蔵

の副葬陶器の間には差が存在する。青銅禮器の器形を土器で模倣する例は、殷・西周時代にも見られるが、副葬陶器として体系を整えるのは秦が最初であるかもしれない。体系化された副葬陶器の例としては、福臨堡遺跡・西高泉遺跡など秦国に属する春秋時代前期（前8世紀後半・前7世紀初頭）の副葬陶器が最も古い例と言える。この時代の福臨堡遺跡の土器群や西高泉遺跡の土器群に連襠形の鬲や甗を見るが、今のところ鍤足鬲の器形を見ない。このことは福臨堡遺跡も西高泉遺跡・秦家溝遺跡も秦人の墓地であったことを意味

していると理解したい。

秦は第6代徳公の元（前677）年に今日の宝鶏市鳳翔県に残る雍城に遷都している。『史記』秦本紀には、

徳公元年、初居雍城大鄭宮。以犧三百牢、祠鄜時。卜居雍、後子孫飲馬於河⁽³²⁾。

とあって、徳公元年に徳公は平陽から北へ遷り雍城大鄭宮に居し、新しい時代に入る。秦雍城は、陝西省鳳翔県の南、雍水の北岸に位置し、獻公二（前383）年または秦孝公十二（前350）年に到るまでの秦都であったが、雍城の南の八旗屯や高荘では春秋時代中期から戦国時代にかかる秦墓が多数発見されている。また、雍城の東、鳳翔県長青鎮孫家南頭村で2003年に91基の秦墓が発掘され、西高泉遺跡の副葬陶器に近い遺物も多く、筆者は春秋時代前期の秦墓が含まれていると推定するが、報告書ではこれらの墓を春秋前期末から春秋後期とし、春秋中後期を主体と見ている⁽³³⁾。また、大堡子山遺跡のIM25号墓からは、多くの青銅器や玉器とともに豆・広口壺・罐・盆などの副葬陶器が出土している⁽³⁴⁾。報告書では、IM25号墓を春秋中期としている。孫家南頭・IM25号墓の報告書の「春秋中期」が春秋時代の何時の時期を示すのかが不明で、筆者は大堡子山遺跡IM25号墓の副葬陶器を秦武公以前の春秋時代前期の遺物と見ている。ここでは第5代の武公までを、春秋時代前期として取り扱い第6代の徳公以降を春秋時代中期と考え、雍城時代以降の土器に関しては別の機会に紹介したい。

おわりに

本文章は、早期秦文化の土器編年を試みた物ではないが、福臨堡遺跡・西高泉遺跡の土器を、円頂山遺跡や西山遺跡の秦春秋時代前期土器に続く同じく前期の基準として取り扱った。福臨堡遺跡・西高泉遺跡両遺跡の土器は、秦春秋時代前期末・中期の土器として扱われることが多いが、この両遺跡の土器を春秋時代中期土器と仮定すると、今日知りうる秦国土器の資料では春秋時代前期土器の明確な基準が欠けてしまう。

第12図に示した2点の鬲は、口唇部が平らに削られ、細かな縄紋の施された典型的な戦国時代秦の陶鬲である。本論では春秋時代中期以降の土器を原則として取り扱わなかったが、駒澤大学収蔵の典型的な秦の戦国鬲なので写真を参考に示した。甘肅省東部・陝西省西部の渭河流域には、先周時代周人の土器と考えられている連襠鬲と、羌戎・姜戎（西戎）の遺物とされる高領乳状袋足分襠鬲と呼ばれる土器が存在し、連襠鬲の類は西周時代の周人の土器に直接繋がる。周人の連襠鬲文化は、殷人の鬲製法も取り入れて、秦人の土器文化となったと考えられ、それに繋がる戦国時代の鬲が、第12図の1・2の鬲である。一方、毛家坪遺跡出土に代表される春秋時代末から戦国時代の鍤足鬲の類は、先周時代の高領乳状袋足鬲と器形の区別が難しいものがある。第4図の3に示した鍤足鬲を代表に考えると、先周時代の高領乳状袋足分襠鬲の器形伝統が西周時代・春秋時代を経て西戎の鬲として戦国時代まで繋がっていると考えざるを得ない。

註

- (1) 秦の先は、帝顓頊^{びようえい}の苗裔なり。孫を女脩と曰う。女脩織るとき、玄鳥卵を隕す。女脩之を呑み、子大業を生む。大業小典の子^{めと}を取る。女華と曰う。女華大費を生む。…舜姓を嬴氏と賜う。大費子二人を生む。
- (2) 甘肅省文物工作隊・北京大学考古学系、1987、「甘肅甘谷毛家坪遺址発掘報告」（『考古学報』1987年第3期）。
- (3) 兪偉超、1985、「古代“西戎”和“羌”、“胡”考古学文化帰属問題的探討」（『先秦兩漢考古学論集』）。
兪偉超教授は西戎を、西周・東周時代に陝西省西部から甘肅・青海省に部族集団を結成していた牧畜部族或いは遊牧部族の総称で、牧畜部族は農業を行うが、遊牧部族は遊牧を専らの生業とするものと、述べている。『史記』匈奴列伝には、「西戎八國服於秦（西戎の八國、秦に服す）」とあるが、筆者はおおむね兪偉超教授の説に従い、「西戎文化」を西周・東周時代に陝西省西部から甘肅・青海省において部族集団を結成していた牧畜部族或いは遊牧部族と定義する。
- (4) 趙化成、1989、「甘肅東部秦与羌戎文化的考古学探索」（『考古類型学的理論与实践』文物出版社）。
- (5) 飯島武次、1998、『中国周文化考古学研究』（同成社、176・177頁）。

- (6) 馬芳芳、2017、「鏹足鬲的類型・分期与分布試析」(『西戎文化的發現与研究學術研討會論文集』天水市博物館)。
- (7) … 太戊より以下、中衍ちゆうえんの後、遂に世々功有り、以て殷国を佐く、故に嬴姓多く顕れる。遂に諸侯となる。
- (8) 非子、犬丘に居る。馬及び畜を好み、善く之を養息す。犬丘の人、之を周孝王に言う。孝王、召し、馬けんいを汧渭けんいの間に主さどら使む。馬大に蕃息す。… 之を秦に邑し、復嬴えい氏の祀を續がしむ、號して秦嬴しんえいと曰う。
- (9) … 秦州清水県はもと秦と名づく、嬴姓の邑なり。漢の清水県は天水郡に属す。
- (10) 周の宣王、位に即き、乃ち秦仲を以て大夫と為し、西戎を誅す。西戎、秦仲を殺す。… 周宣王乃ち莊公の昆弟五人を召し、兵七千人を與え、西戎を伐たしむ。之を破る。是に於て復た秦仲の後及び其の先大駱の地犬丘を予え、之を并有せしめ、西垂の大夫と為す。
- (11) 秦州上邽縣の西南九十里、漢の隴西の西縣これ也。
- (12) 甘肅省文物考古研究所・中国国家博物館・北京大学考古文博学院・陝西省考古研究院・西北大学文博学院、2008、『西漢水上游考古調査報告』(文物出版社)。
- (13) … 西戎、犬戎、申侯と與ともに周を伐ち、幽王を驪山の下に殺す。而うして秦の襄公、兵をひきいて周を救ひ、戦はなはだい甚つとめて功有り。周、犬戎の難を避けて、東のかた雒邑に徙る。襄公、兵を以て周の平王を送る。平王、襄公を封じて諸侯と為し、之に岐より以西の地を賜い、曰く、戎無道にして我が岐豊の地を侵し奪えり、秦能く戎を攻めて逐へり、即ち其地をたもてと。與ともに誓いて之を封爵す、襄公是において始めて国す。
- (14) 礼県博物館・礼県秦西垂文化研究会、2004、『秦西垂陵区』(文物出版社)。早期秦文化聯号考古隊、2008、「2006年甘肅礼県大堡子山祭祀遺迹発掘簡報」(『文物』2008年第11期)。
- (15) 襄公立ち國うくを享ること十二年、初て西時つくを為る。西垂に葬る。
- (16) 飯島武次、2018、「春秋戦国時代秦王陵の被葬者と変遷」(『駒沢史学』第91号、187頁)。
- (17) 甘肅省文物考古研究所・中国国家博物館・北京大学考古文博学院・陝西省考古研究院・西北大学文博学院、2008、『西漢水上游考古調査報告』(文物出版社)。
- (18) 甘肅省文物考古研究所・礼県博物館、2002、「礼県円頂山春秋秦墓」(『文物』2002年第2期)。
- (19) 四年、汧渭の會に至り、曰く、昔周我が先秦嬴を此に邑せり。後卒つひに諸侯と為るを獲たり、と。乃ち之に居らんことを卜す。占に曰く吉なり。即ち營みて之に邑す。
- (20) 東洋文庫中国古代地域史研究班、2008、『水経注疏訳注(渭水篇上)』(財団法人東洋文庫、266～269頁)。
- (21) 寧公二年、公、徙りて平陽に居る。… 武公元年、… 平陽の封宮に居る。
- (22) 宝鷄市博物館・盧連成、宝鷄県文化館・楊満倉、1978、「陝西宝鷄県太公廟村發現秦公鐘、秦公罍」(『文物』1978年第11期)。
- (23) 飯島武次、2018、「春秋戦国時代秦王陵の被葬者と変遷」(『駒沢史学』第91号、188頁)。

- (24) 中国科学院考古研究所宝鷄発掘隊、1963、「陝西宝鷄福臨堡東周墓葬発掘記」(『考古』1963年第10期)。
- (25) 中国科学院考古研究所、1959、『上村嶺虢国墓地』(『中国田野考古報告集』考古学専刊丁種第十号)。
- (26) 唐蘭、1954、「邠県出土的青銅器群」(『文物参考資料』1954年第5期)。
- (27) 林巳奈夫、1984、『殷周青銅器の研究…殷周青銅器綜覧一』(吉川弘文館)。
- (28) 林巳奈夫、1972、『中国殷周時代の武器』(京都大学人文科学研究所)。
- (29) 宝鷄市博物館・宝鷄県図書館、1980、「宝鷄県西高泉村春秋秦墓発掘記」(『文物』1980年第9期)。
- (30) 岡村秀典、1985、「秦文化の編年」(『古史春秋』第2号)。
- (31) 陝西省文物管理委員会、1965、「陝西宝鷄陽平鎮秦家溝村秦墓発掘記」(『考古』1965年第7期)。
- (32) 徳公元年、初めて雍城大鄭宮に居る。犧三百牢を以て、^{ふじまつ}廊峙を祠る。雍に居らんことを卜す。後子孫、
馬に河にて^{みずか}飲はん、と。
- (33) 陝西省考古研究院・宝鷄市考古工作隊・鳳翔県博物館、2013、「陝西鳳翔孫家南頭春秋秦墓発掘簡報」
(『考古与文物』2013年第4期)
- (34) 早期秦文化聯号考古隊、2008、「2006年甘肅礼県大堡子山東周墓葬発掘簡報」(『文物』2008年第11期)。

挿図出典目録

- 第1図 甘肅・陝西渭河流域の早期秦文化・秦文化遺跡および西周文化遺跡地図：筆者作図。
- 第2図 陶鬲 1～3. A組文化・西周、4～6. B組文化・春秋戦国、毛家坪遺跡：甘肅省文物工作隊・
北京大学考古学系、1987、「甘肅甘谷毛家坪遺址発掘報告」(『考古学報』1987年第3期)。
- 第3図 毛家坪遺跡A地点北 ボーリング調査 甘肅省甘谷県盤安鎮：筆者写真。
- 第4図 陶鬲 1. 殷形鬲、2. 周形連襠鬲、3. 鐘足鬲：筆者写真。
- 第5図 李崖遺跡 甘肅省天水市清水県：筆者写真。
- 第6図 西山遺跡 西山遺跡から、西山遺跡後方は礼県市街、右手遠方が円頂山遺跡、左端遠望が大
堡子山遺跡：筆者写真。
- 第7図 副葬陶器 1・2. 陶壺、円頂山遺跡、3.4. 陶倉、西山遺跡、春秋時代：筆者写真。
- 第8図 副葬陶器 福臨堡遺跡：中国科学院考古研究所宝鷄発掘隊、1963、「陝西宝鷄福臨堡東周墓葬
発掘記」(『考古』1963年第10期)。
- 第9図 副葬陶器 1～8. M2号墓、9～18. M3号墓、西高泉遺跡：宝鷄市博物館・宝鷄県図書館、
1980、「宝鷄県西高泉村春秋秦墓発掘記」(『文物』1980年第9期)。
- 第10図 副葬陶器 1. 簋、2. 甗、西高泉村遺跡：筆者写真。
- 第11図 副葬陶器 1～7. M3号墓、8・9. M4号墓、秦家溝遺跡：陝西省文物管理委員会、1965、「陝
西宝鷄陽平鎮秦家溝村秦墓発掘記」(『考古』1965年第7期)。
- 第12図 陶鬲 戦国時代、駒澤大学考古学研究室蔵：筆者写真。

早期秦文化的陶器

饭岛 武次

(公益财团法人东洋文库、驹泽大学)

绪论

近年来，笔者对甘肃、陕西两省的西周时期秦人遗址和春秋战国时期的秦文化遗址进行了调查与研究。特别是在2016至2018年，在科学研究费助成事业（基盘研究C“渭河流域秦文化形成的考古学研究”）的支持下，笔者对陕西、甘肃两省渭河流域西周时期的秦人遗址和东周时期的秦文化遗址进行了调查，并对陕西、甘肃省境内出土的秦文化陶器、瓦、砖、青铜器等遗物进行绘图与摄影，收集了资料。本文旨在从这些材料中撷取秦国建国初期的陶器，运用考古学的研究方法，对早期秦文化陶器的演变过程进行考察。这里介绍的大部分陶器是墓葬中的随葬品，但也包括一些从生活遗址中出土的日常用陶器。

(1) 秦人祖先的传说和秦文化的出现

秦的传说和历史，最初记载于《史记·秦本纪》：

“秦之先，帝颛顼之苗裔。孙曰女修。女修织，玄鸟陨卵，女修吞之，生子大业。大业取少典之子，曰女华。女华生大费。……舜赐姓嬴氏，大费生子二人。”

根据秦国的传说，舜赐予该部族“嬴”的姓氏，秦的历史自此开始。但考古学上可以证实的早期秦文化出现在西周时期或更早的商朝晚期，由甘肃省东部的渭河流域兴起，逐渐向东传播到陕西省西部。毛家坪遗址是早期秦文化最著名的遗址之一，由北京大学于1982、1983年发掘⁽¹⁾。毛家坪遗址位于甘肃省天水市甘谷县盘安乡毛家坪村的渭河南岸（图1），占地3万平方米以上。毛家坪遗址出土的陶器可分为两组：A组，包括夹砂灰陶的周式联裆鬲，推测为秦文化遗物；B组，包括夹砂红陶系的铲足分裆鬲，笔者和其他一些研究者推测此为西戎文化遗物⁽²⁾。A组文化有包含居住遗址在内的文化层和墓葬，其中包括2处居住遗址、37个灰坑、4组鬲棺、22个土圜墓。文化层和居住遗址分为四期六段，年代从西周早期到战国晚期。墓葬则分为五期八段，年代从西周中期到战国早期⁽³⁾。《考古学报》1987年第3期刊登了出土陶鬲的照片，图2展示了其中一部分。图2中的1~3是A组文化的周式联裆鬲，1从生活遗址中出土，2和3则出土于墓葬。这些鬲的裆部均存在一个特殊的凹陷，考古报告将其归为澧西陶器的第4、5期。但从鬲的器型来看，应归为笔者所提出的编年体系中的西周第1期至第2、3期⁽⁴⁾。周式鬲可以说是渭河流域天水以西最能作为参考的考古资料之一。图2的4~6均为墓葬出土，是归为B组文化的夹砂红褐陶陶器。其特征为分裆，

袋足的足尖呈现出平底实心的铲状足，因此也被称为铲足鬲。考古报告一般将其归为春秋时期，但最新研究表明，应归为战国中期至晚期^⑤。B组陶器可以理解为西戎文化的产物，它与秦文化在渭河上游共存。总之，这些陶器是研究先秦文化陶器的起点。驹泽大学文学部历史学科考古学研究室于2012年，在西北大学梁云教授对毛家坪遗址进行调查期间访问了该遗址（图3）。

在《史记·秦本纪》开头，另有以下记载：

“……自太戊以下，中衍之后，遂世有功，以佐殷国。故嬴姓多显，遂为诸侯。”

据记载，秦与商的关系密切，自商朝太戊起，就有许多嬴姓的达官显贵。虽然不能断言文献所讲秦人与商朝的亲密关系是历史事实，但它确实表明秦人与商朝之间存在着某种关系。另外，关于秦人祖先非子，《史记·秦本纪》有以下记载：

“非子居犬丘，好马及畜，善养息之。犬丘人言之周孝王，孝王召，使主马于汧渭之闲，马大蕃息。……邑之秦，使复续嬴氏祀，号曰秦嬴。”

关于“邑之秦”，《括地志·秦州》（《史记正义》引）有以下记载：

“秦州清水县本名秦，嬴姓邑。汉清水县属天水郡。”

根据记载，秦的祖先非子居于犬丘，善于养马。听闻此事的周孝王召见非子，让他在汧水和渭水之间的地方养马，马匹的数量因此大大增加。为奖励其功绩，周孝王把秦邑的土地赐予非子，并赐姓嬴，号曰秦嬴。周孝王赐予的秦邑之地，现今位于甘肃省天水市清水县。在当地的清水县博物馆内，藏有诸多从清水县出土的商代中期晚段至西周时期，乃至东周时期的独具特色的陶鬲。图4.1便是清水县出土的高约13cm的商式灰陶鬲，其口沿较大并饰有粗绳纹，三根袋足与相邻的袋足连接在一起。图4.1下部是陶鬲底部的照片，从中可以看出袋足的接合状态，此特征与商中期文化第3期至商晚期文化第1期的遗物特征相似。与殷墟遗址陶鬲类似的遗物在甘肃省清水县也有出土，此事引起了笔者的注意，另据北京大学考古文博学院的赵化成教授所说，清水县的先周遗址中多次有商式陶器出土。图4.2是清水县出土的高约15cm的周式灰陶鬲，也可以称作联裆鬲。施有相对较细的绳纹，观察底部会发现三袋足是沿着各自的稜线接合在一起的，并且在三个方向的股间也有联裆鬲独特的凹陷。对照笔者编年的西周第2、3期遗物，从中可以发现与毛家坪遗址出土A组周式鬲，特别是与图4.2器型相似的遗物。

在渭河上流的天水市清水县、甘谷县之间的区域，出土有许多上述周式鬲。并且在清水县，即所谓的秦邑之地，也有商式陶器出土的痕迹。因此，学界普遍认为这些周式陶器、商式陶器是早期秦文化陶器组合的核心。另外，笔者2010年8月和9月参加了两次北京大学考古文博学院赵化成教授的带领下清水县李崖遗址的发掘工地（图5）。

在《史记·秦本纪》中，与秦相关的西戎、西垂有以下记载：

“周宣王即位，乃以秦仲为大夫，诛西戎。西戎杀秦仲。……周宣王乃召庄公昆弟五人，

与兵七千人，使伐西戎，破之。于是复予秦仲后及其先大骆地犬丘，并有之，为西垂大夫。”

周宣王即位称王之后，任用秦仲为大夫，命其讨伐西戎。然而西戎反击并杀掉了秦仲。在此之后，周宣王召见秦仲的五子，即庄公五兄弟，赐兵七千，又命其讨伐西戎。击败西戎后，为表其功绩，周宣王将秦仲的封地与犬丘之地赐予秦庄公，令其一并治理，并封他为西垂大夫。这里的“西垂”在《括地志·秦州》（《史记正义》引）也有所记载：

“秦州上邽县西南九十里，汉陇西西县是也。”

西垂被认为是汉代的陇西郡西县，现今位于甘肃省礼县以北约 35 公里处。在此地的西汉水流域，已经发现了诸多散落着早期秦文化陶器的遗址，例如礼县永兴乡的圆顶山（赵坪）遗址、蒙张遗址等⁽⁶⁾。在上文提及的毛家坪遗址，以及非子至秦仲以来与秦有关联的秦邑之地，除早期秦文化的陶器之外，还发现有时期更晚的春秋晚期至战国时期的铲足鬲，推断其为西戎的遗物。图 4.3 为清水县博物馆所藏高约 14cm 的红陶铲足鬲。此鬲最大径位于腹部，粗袋足，双耳，袋足尖部为铲形实心足。图 4.3 下部的照片中可以清晰看到铲足的形状，也可清晰看到三袋足股间黏土的接合状况。此器型的铲足鬲大多归为战国时期的遗物。这不禁使人追想起西周时期至战国时期，秦在清水县这块秦邑之地上与西戎建立起密切且复杂关系的历史。

（2）从秦国建立到迁都平阳

秦作为诸侯国建国时的情形在《史记·秦本纪》中有如下记载：

“……西戎犬戎与申侯伐周，杀幽王酈山下。而秦襄公将兵救周，战甚力，有功。周避犬戎难，东徙雒邑，襄公以兵送周平王。平王封襄公为诸侯，赐之岐以西之地。曰：‘戎无道，侵夺我岐、丰之地，秦能攻逐戎，即有其地。’与誓，封爵之。襄公于是始国。”

这里记载了身为西垂大夫的秦襄公因护卫周平王前往洛阳有功，受封为诸侯并且建立秦国的历史。

甘肃省礼县永兴乡和永平乡境内，位于西汉水北岸的大堡子山遗址在 1993 年遭遇了大规模盗掘，1994 年进行抢救性发掘，发掘了两座中字型墓葬和祭祀坑（乐器坑）等遗址⁽⁷⁾。南侧的 M2 全长 88m，北侧的 M3 全长 115m。每座墓葬都在墓室的二层台上殉人，墓底腰坑内殉犬。被推测出土于大堡子山大墓的秦公鼎和秦公簋如今被收藏在上海博物馆，秦公鼎和秦公簋表面施有窃曲纹，其器型与纹样与林已奈夫教授的青铜器编年中的西周 III B 到春秋 I 相吻合，这件鼎和簋在类型学上是西周晚期、春秋早期的文物。

《史记·秦始皇本纪》中记载如下：

“襄公立享国十二年、初为西畴。葬西垂。”

如上所述，西垂相当于汉代的陇西郡西县，位于现今礼县以北 35 公里处，而大堡子山位于甘肃省礼县的西北方，西汉水以北。根据墓葬的年代和地理位置，以及秦公鼎、秦公簋

铭文中的秦公的称谓，是从秦被列为诸侯的第一代国君秦宋襄公开始被正式使用，笔者推断，M3的被葬者很可能是秦襄公，M2的被葬者则是襄公妃⁽⁸⁾。

笔者在2017年9月走访了甘肃省礼县的大堡子山遗址，并对礼县博物馆中疑似秦建国初期的陶器进行了摄影。图6所示为位于甘肃省礼县市区西侧山脚的西山遗址⁽⁹⁾，西山遗址的后方（东侧）是礼县城区，右侧远处为永兴乡礼县村赵坪村的圆顶山（赵坪）遗址，左端远处是大堡子山遗址所处的方向。图7.1、7.2是在圆顶山遗址出土的随葬陶器中的陶方壶。两件陶器的高度大约为38cm，陶器表面施有细绳纹，两侧各有一铺耳和圆环。该件陶器模仿了陕西省西部、甘肃省东部春秋时期随葬青铜器中壶的器型。如上所述，在圆顶山遗址不仅收集到了西周晚期到春秋早期的较古老的陶器，还发掘了属于春秋早期的圆顶山M1⁽¹⁰⁾，因此，笔者认为图7.1、7.2的方壶是春秋早期的襄公晚年、文公到静公、宁公初期时期的文物。图7.3、7.4是西山遗址出土随葬陶器中的陶仓。两者都是高约28.5厘米的文物，陶器表面施有细绳纹，明显与图7.1、7.2的春秋早期的陶方壶属于同一时期。陶仓是粮仓的明器，这种类型的陶方壶和陶仓明器都是非常古老的例子，与后述福临堡遗址和西高泉遗址的随葬陶器的基本组合相比，属于时代更古老的襄公晚年、文公至宁公初期时期。从这以后，作为随葬品的陶仓在秦国的墓葬中开始普遍化。与周室相关联的洛阳中州路墓葬中，直至战国时期结束都没有出现过这种建筑物类的明器。春秋早期出现的陶仓，表现了当时秦国礼制和葬仪的革新性。

《史记·秦本纪》文公四年条的记载如下：

“四年，至汧渭之会曰，昔周邑我先秦嬴于此。后卒获为诸侯。乃卜居之。占曰吉。即营邑之。”

即是说，以汧渭之会为邑，而这个汧河与渭河的合流点，即西周末年的汧渭之会或许就是后文中所说的平阳以东的位置⁽¹¹⁾。《史记·秦本纪》中更有这样的记载：

“宁公二年，公徙居平阳……武公元年……居平阳封宫。”

也就是说，秦在宁公二年（前714）时迁往了渭河北岸的平阳，即如今的陕西省宝鸡市陈仓区附近。1978年，在渭河北岸的陕西省宝鸡市杨家沟太公庙村发现的秦公罍上⁽¹²⁾，记载着一代襄公、二代文公、静公、三代宁公、五代武公的代名词或秦公名⁽¹³⁾。另外在宝鸡市市街西的渭河北岸发现了福临堡遗址的秦墓群，为春秋时期的秦国遗址⁽¹⁴⁾。1959、1960年调查了福临堡遗址中春秋时期的墓葬，其中六座出土了随葬陶器（图8）。出土的随葬陶器包括3件甗、11件鼎、6件方壶、1件广口罐、6件簋、2件鬲、3件无盖豆、2件盆、3件罐、2件匝和1件盘。甗中包括三足甗和四足甗，既有像日常陶器那样施有绳纹的文物（图8.1、8.2），也有模仿青铜器的器型施有凸弦文的文物（图8.3、8.4）。福临堡遗址的随葬陶器中看到的这种甗，可以看作是秦独特的随葬陶器器型。鬲（图8.8）的颈部下方施有绳纹，底部有麻点纹。鬲虽然是这个时代随葬陶器的基本组成器物，但在福临堡遗址

的六座陶器随葬墓中只出土了两件。福临堡遗址中出土了 11 件陶鼎，图 8.5、8.6 的陶鼎的器型很明显是在模仿青铜器。虽然相较于原来的青铜鼎有所变形，但是可以认为大堡子山遗址出土的秦公鼎等秦的青铜鼎是其原型。图 8.7 的陶鼎是由施有绳纹的圆底罐加三实足所形成。福临堡遗址出土的陶方壶（图 8.9、8.10）模仿了青铜方壶的器型，图 8.9 的器物上细致的彩绘体现了秦的随葬陶器的特色。虽然细微之处有所不同，福临堡遗址 M1 出土了可能为陶方壶原型的青铜方壶。陶豆（图 8.12）上也施有彩绘。陶簋（图 8.15、8.16、8.17）也是模仿了同时代的青铜簋，特别是图 8.16、8.17 和大堡子山出土的秦公簋应该同属一类，图 8.17 的器物上施有秦独特的彩绘。盆（图 8.13、8.14）是平沿平底，与西周末年的陶盆器型十分相似，成为了春秋早期秦国随葬陶器组合中的基本器型。福临堡遗址的秦墓中出土的随葬陶器组合里，福临堡 M4 以鬲、盆、罐为基本组合，M3 以鼎、簋、方壶为基本组合。鬲、盆、罐的组合与和周室相关的洛阳市中州路墓葬中的鬲、盆、罐组合相同，可以看作是秦地继承了西周晚期随葬陶器的传统。鼎、簋、方壶的随葬陶器组合可能是模仿了秦国春秋早期的青铜器组合。

虽然很难确定福临堡遗址墓葬的详细年代，但 M1 出土的甗、匜、盘等青铜器类似于河南省三门峡市上村虢国墓地 M1820 出土的青铜器⁽¹⁵⁾，也很接近河南省郑县太仆乡出土的青铜器⁽¹⁶⁾。另外值得注意的是，鬲、盆、罐的随葬陶器组合是西周晚期常见的组合，这表明福临堡遗址的秦墓接近西周晚期的末段。参照林巳奈夫教授的青铜器编年，福临堡遗址的时期是春秋 I⁽¹⁷⁾，或者说是春秋早期的前 770 年到前 7 世纪中叶之间⁽¹⁸⁾，笔者在这里略微降低上限，认为福临堡遗址的时期是文公到宁公、武公时代。换句话说，这是前 8 世纪中叶到前 7 世纪上半叶的遗址。

与福临堡遗址的秦墓年代相近的春秋时期秦墓，还有在宝鸡县杨家沟东部发现的西高泉遗址⁽¹⁹⁾。据推测，杨家村西高泉村附近可能接近前 714 年宁公定为平阳的地点，但平阳的具体位置尚未确定。西高泉遗址发现了三座墓，在 M1 中出土了与上村虢国墓地出土青铜器同时期或更古老一些的壶、豆、甬钟、剑、斧、戈等青铜器。M2、M3 中出土的随葬陶器（图 9、10）有鼎 6 件、簋 8 件、豆 4 件、甗 2 件、广口壶 4 件、鬲 1 件、盆 1 件、罐 5 件、盘 1 件与匜 1 件。图 9.1 ~ 9.8 是 M2 出土的文物，也有一些秦式陶鬲作为随葬品。9 ~ 18 是 M3 出土的文物。两者都有鼎、甗、簋、无盖豆、广口壶的组合，而鼎、甗、簋的器型均从青铜器衍生而来。陶豆（图 9.7、9.17）和广口壶（图 9.4、9.12）都显示了春秋早期秦国随葬陶器的特色。图 10.1 是 M3 出土的陶簋，是图 9.13 线图的照片，与大堡子山遗址出土的秦公簋的器型相似。图 10.2 是图 9.11 的甗的照片。西高泉村遗址的陶器器型与福临堡遗址出土的文物极其接近，以鼎、簋、广口罐为基础再加上甗、无盖豆的组合，也与福临堡遗址的陶器组合极其相似。福临堡遗址使用的是方壶，而西高泉遗址使用的是广口罐。至于西高泉遗址三座墓的年代，从 M1 出土青铜器的年代和陪葬陶器的器型、组合来看，应该在秦

宁公、武公时期，即前 8 世纪后叶到前 7 世纪前叶。除此以外，冈村秀典先生认为西高泉遗址的 M3 比 M2 更加古老⁽²⁰⁾。

宝鸡县平阳镇秦家沟遗址同样被推测位于秦平阳附近，根据报告，M3、M4、M5 三座秦墓出土有随葬陶器⁽²¹⁾。M3 内出土的随葬陶器包括鬲 1 件、盆 2 件、广口壶 2 件、甗 1 件、无盖豆 2 件、匜 1 件和盘 1 件；M4 与 M5 内分别出土有随葬陶器鬲 1 件、盆 1 件和罐 1 件。由于考古发掘报告中并未展示罐的照片，本文图 11 中缺少其罐的图片，但可知秦家沟遗址随葬陶器的基本组合为鬲、盆、广口壶或是鬲、盆、罐。秦家沟遗址的三座秦墓与西高泉遗址相同，都被认定为秦平阳近郊的墓葬，虽然考古发掘报告中认定其属于战国时期，但从甗、广口壶、豆等器型与陶器组合来看，应与西高泉遗址的三座秦墓年代大致相同，或属于年代稍晚的宁公晚年、武公、德公在位时期，即公元前 8 世纪后半叶到公元前 7 世纪。

公元前 8 世纪后半到公元前 7 世纪初的春秋早期，秦国墓葬内的随葬陶器中便已出现模仿青铜器制作的鼎、簋、方壶、甗。而这一时期的洛阳东周随葬陶器则继承了西周以来的传统，普遍使用鬲、盆、罐的实用陶器组合，秦国的随葬陶器与周王室的随葬陶器之间存在一定的差异。商、西周时期便可见到用陶器模仿青铜礼器器型的例子，但可能秦最早将其作为随葬陶器，并形成完整体系。体系化的随葬陶器的例子中，福临堡遗址、西高泉遗址等秦国遗址中出土的随葬陶器时代最早，属于春秋早期（公元前 8 世纪后半叶至公元前 7 世纪初）。这一时期的福临堡遗址与西高泉遗址的陶器群中，发现了连裆形的鬲或甗，但目前尚未发现铲足鬲。这一现象意味着福临堡遗址与西高泉遗址、秦家沟遗址均为秦人的墓地。

秦国在第六代德公的元年，迁都至今宝鸡市凤翔县，当地残存雍城遗址。《史记·秦本纪》中有记载：

“德公元年、初居雍城大郑宫。以牺三百牢、祠鄜畤。卜居雍、后子孙饮马于河。”

即，德公元年，德公从平阳向北迁居至雍城大郑宫，秦国进入了新的时代。秦雍城位于陕西省凤翔县南、雍水北岸，在秦献公二年（前 383）或是秦孝公十二年（前 350）前为秦国都城，雍城以南的八旗屯与高庄等地发现有大量春秋中期至战国时期的秦墓。此外，2003 年在雍城以东的凤翔县长青镇孙家南头村发掘了九十一座秦墓，墓中发现了许多与西高泉遗址随葬陶器相似的遗物，笔者虽然推定其中包含春秋早期的秦墓，但考古发掘报告认为这些墓的时代在春秋早期末段至春秋晚期，以春秋中晚期为主⁽²²⁾。此外，大堡子山遗址的 IM25 内除大量青铜器、玉器之外，也出土有豆、广口壶、罐、盆等随葬陶器。根据考古发掘报告，IM25 属春秋中期。由于孙家南头村 IM25 的考古发掘报告中，“春秋中期”为春秋时期的具体哪个时段尚不明确，笔者将大堡子山遗址 IM25 的随葬陶器视为秦武公以前的春秋早期的遗物。在此将第五代的武公之前认定为春秋早期、第六代的德公之后视为春秋中期，关于雍城时期以后的陶器若有机会再详加介绍。

结语

本文虽未尝试对早期秦文化陶器进行编年，但继圆顶山遗址、西山遗址的秦春秋早期陶器之后，将福临堡遗址、西高泉遗址的陶器也视为秦春秋早期陶器的基准。

福临堡遗址、西高泉遗址中出土的陶器多被认定为秦春秋早期末段、中期的陶器，但若假定两座遗址的陶器为春秋中期陶器，则现今已知的秦国陶器资料中便缺少了春秋早期陶器的明确标准。

图 12 所示的 2 件鬲，其口唇部被削平并施有细绳纹，是典型的战国时期秦的陶鬲。本文原则上并未对春秋中期以后的陶器进行讨论，仅以驹泽大学所藏典型的秦战国鬲图片为参考。在甘肃省东部、陕西省西部的渭河流域，发现有被认定为先周时期周人陶器的连裆鬲，以及被认定为羌戎、姜戎（西戎）遗物，被称为高领乳状袋足分裆鬲的陶器。连裆鬲的器类与西周时期周人的陶器有直接的联系。周人的连裆鬲文化加入商人的鬲制法，最终形成了秦人的陶器文化，与之关联的战国时期的鬲如图 12.1、12.2 所示。另一方面，以毛家坪遗址出土品为代表的春秋时期末段到战国时期的铲足鬲，与先周时期的高领乳状袋足鬲在器型上难以区分。参考图 4.3 所示铲足鬲，可以认为先周时期的高领乳状袋足分裆鬲的器型传统历经西周、春秋时期，作为西戎的鬲一直延续至战国时期。

注：

- (1) 甘肃省文物工作队、北京大学考古系：《甘肃甘谷毛家坪遗址发掘报告》，《考古学报》，1987 年第 3 期。
- (2) 俞伟超：《古代“西戎”和“羌”、“胡”考古学文化归属问题的探讨》，《先秦两汉考古学论集》，文物出版社，1985 年。俞伟超教授将西周、东周时期在陕西省西部至甘肃省、青海省结成部族集团的畜牧或游牧部落统称为西戎，并指出畜牧部落会进行农业生产，但游牧部落以游牧为主要生业。虽然《史记·匈奴列传》中有记载：“西戎八國服於秦”，笔者大致以俞伟超教授的说法为准，将西周、东周时期陕西省西部至甘肃、青海省地区结成部落集团的畜牧、游牧部落的文化定义为“西戎文化”。
- (3) 赵化成：《甘肃东部秦与羌戎文化的考古学探索》，《考古类型学的理论与实践》，文物出版社，1989 年。
- (4) 饭岛武次：《中国周文化考古学研究》，同成社，1998 年，第 176、177 页。
- (5) 马芳芳：《铲足鬲的类型·分期与分布试析》，《西戎文化的发现与研究学术研讨会论文集》，天水市博物馆，2017 年。
- (6) 甘肃省文物考古研究所、中国国家博物馆、北京大学考古文博学院、陕西省考古研究所、西北大学文博学院：《西汉水上游考古调查报告》，文物出版社，2008 年。
- (7) 礼县博物馆、礼县秦西垂文化研究会：《秦西垂陵区》，文物出版社，2004 年。早期秦文化联合考古队：《2006 年甘肃礼县大堡子山祭祀遗迹发掘简报》，《文物》，2008 年第 1 期。

- (8) 饭岛武次：《春秋战国時代秦王陵の被葬者と变迁》，《驹泽史学》，2018年，第91号，第187页。
- (9) 甘肃省文物考古研究所、中国国家博物馆、北京大学考古文博学院、陕西省考古研究院、西北大学文博学院：《西汉水上游考古调查报告》，文物出版社，2008年。
- (10) 甘肃省文物考古研究所、礼县博物馆：《礼县圆顶山春秋秦墓》，《文物》，2002年第2期。
- (11) 东洋文库中国古代地域史研究班：《水经注疏译注（渭水篇上）》，财团法人东洋文库，2008年，第266～269页。
- (12) 宝鸡市博物馆、卢连成、宝鸡县文化馆、杨满仓：《陕西宝鸡县太公庙村发现秦公钟、秦公罍》，《文物》，1978年第11期。
- (13) 饭岛武次：《春秋战国時代秦王陵の被葬者と变迁》，《驹泽史学》，2018年，第91号，第188页。
- (14) 中国科学院考古研究所宝鸡发掘队：《陕西宝鸡福临堡东周墓葬发掘记》，《考古》，1963年第10期。
- (15) 中国科学院考古研究所：《上村岭虢国墓地》，《中国田野考古报告集》考古学专刊丁种第十号，科学出版社，1959年。
- (16) 唐兰：《郑县出土的青铜器群》，《文物参考资料》，1954年第5期。
- (17) 林巳奈夫：《殷周青銅器の研究……殷周青銅器綜覽一》，吉川弘文馆，1984年。
- (18) 林巳奈夫：《中国殷周時代の武器》，京都大学人文科学研究所，1972年。
- (19) 宝鸡市博物馆、宝鸡县图书馆：《宝鸡县西高泉村春秋秦墓发掘记》，《文物》，1980年第9期。
- (20) 冈村秀典：《秦文化の編年》，《古史春秋》，1985年第2号。
- (21) 陕西省文物管理委员会：《陕西宝鸡阳平镇秦家沟村秦墓发掘记》，《考古》，1965年第7期。
- (22) 早期秦文化联合考古队：《2006年甘肃礼县大堡子山东周墓葬发掘简报》，《文物》，2008年第11期。

插图出典目录

- 第1图 甘肃、陕西渭河流域的早期秦文化、秦文化遗址及西周文化遗址地图：笔者作图。
- 第2图 陶鬲 1～3A. 组文化、西周，4～6. B组文化、春秋战国，毛家坪遗址：甘肃省文物工作队、北京大学考古学系：《甘肃甘谷毛家坪遗址发掘报告》，《考古学报》，1987年第3期。
- 第3图 毛家坪遗址 A地点北钻探调查 甘肃省甘谷县盘安镇：笔者摄影。
- 第4图 陶鬲 1. 商式鬲，2. 周式联裆鬲，3. 铲足鬲：笔者摄影。
- 第5图 李崖遗址 甘肃省天水市清水县：笔者摄影。
- 第6图 西山遗址 以西山遗址为原点，西山遗址后方是礼县街区，右手远方是圆顶山遗址，左端远望是大堡子山遗址：笔者摄影。
- 第7图 随葬陶器 1.2. 陶壶，圆顶山遗址，3.4. 陶仓，西山遗址，春秋时期：笔者摄影。
- 第8图 随葬陶器 福临堡遗址：中国科学院考古研究所宝鸡发掘队：《陕西宝鸡福临堡东周墓葬发掘记》，《考古》，1963年第10期。

第9图 随葬陶器 1～8. M2, 9～18. M3, 西高泉遗址：宝鸡市博物馆、宝鸡县图书馆：《宝鸡县西高泉村春秋秦墓发掘记》，《文物》，1980年第9期。

第10图 随葬陶器 1. 簋，2. 甗，西高村遗址：笔者摄影。

第11图 随葬陶器 1～7. M3, 8.9. M4, 秦家沟遗址：陕西省文物管理委员会：《陕西宝鸡阳平镇秦家沟村秦墓发掘记》，《考古》，1965年第7期。

第12图 陶鬲 战国时期，驹泽大学考古学研究室藏：笔者摄影。

(杨海东、胡九六、王珏、周丹青译，吕梦校)

Pottery of the Early Qin Culture

IIJIMA Taketsugu

(Toyo Bunko & Komazawa University, Japan)

In the last few years, the author has collected the research materials for Qin culture through sketching them and taking photographs of the pottery of this period. In this report, the author will introduce early Qin pottery related to the founding period of the Qin state. Most of the pottery described was found to be burial goods unearthed from tombs. Fig.7-1 and 7-2 are two such clay square pots(方壺) unearthed from the tombs in the Yuandingshan site, which are presumed to belong to the early stage of the Spring and Autumn period. Fig.7-3 and 7-4 show two clay granaries(倉) unearthed from the tombs in the Xishan site, which also are presumed to belong to the early stage of the Spring and Autumn period. The styles of these clay square pots and granaries are extremely old and belong to the period from the late years of Duke Xiang and Duke Wen to the early years of Duke Ning (Duke Xian). These are older than the pottery from the Fulinbao and Xigaoquan sites below. Fig.8 contains burial pottery unearthed from six tombs in the Fulinbao site. These include a steamer(甗), tripod cauldron(鼎), square pot(方壺), wide-mouthed container(大口罐), bowl(簋), tripod kettle(鬲), covered bowl on a long stem(無蓋豆), tray(盆), container(罐), bowl with spout(匜), and round curved dish(盤). The Fulinbao site is considered to belong to the period from Duke Wen to Duke Ning and Duke Wu. Fig.9 shows burial pottery unearthed from the Spring and Autumn period tomb of the Xigaoquan site, located on the east side of Yangjiagou, Baoji county. As it was generally considered that Duke Ning transferred the capital of Qin state to Pingyang near Yangjiacun and Xigaoquancun village in 714 B.C., the burial pottery in Fig.9 is considered to be from the period of Duke Ning and Duke Wu.



2006年8月 陝西省考古研究所前にて
(前列左より曹瑋氏、飯島、徐天進氏、後列高野晶文氏)



2006年8月 陝西省韓城考古隊にて
(中央左より劉静氏、飯島、王占奎氏、孫秉君氏)